

2023年3月期事業報告書 (2022年4月1日～2023年3月31日)

特定非営利活動法人 ヴォース・ニッポン

1. 概要

2023年3月期の活動方針は、「高い品質と信頼性を備えた海洋の現場計測データを社会に提供する活動を着実に進展させ、その価値を醸成し、新しい展開も視野に入れながら、事業基盤を整える」としました。

現行の装置による観測は、2023年で6年目を迎えようとしており、経年による部品の状態を丹念にチェック・修復する年となりました。2022年の冬からは、基幹センサーである塩分計に不具合が発生。現在も原因究明の取り組みは続いており、早期の復旧を目指しています。

今期に取り組んだ各事業の詳細は、「5. 事業計画の実施内容」をご覧ください。

2. 会員数

- ・正会員数：13名（2023年3月31日現在）
- ・支援会員数：0名（2023年3月31日現在）

3. 総会・理事会

[総会]

第22回 通常総会は、2022年5月13日、当法人事務所で開催され、次の通り議決・承認されました。（正会員数13名、出席者13名、うち書面表決者0名、表決委任者4名）

- ・2022年3月期の事業報告および決算の承認
- ・2023年3月期の事業計画および予算の承認
(事業計画は、データ回収・公開事業、装置維持管理事業、海洋モニタリング活動の継続3事業、経常収入予算573万円、同支出428万円など)

[理事会]

第28回 理事会（日時：2022年5月13日（金）／場所：当法人事務所）

- ・2022年3月期の事業報告および決算の承認
- ・2023年3月期の事業計画および予算の承認

4. 監査

2023年3月期の収支計算書を含む全ての会計書類について、当法人監事による監査を受け、2023年4月14日付けで、内容は正確かつ適法である旨の監査報告書を受領しました。

5. 事業計画の実施内容

2023年3月期は、次の3事業を実施しました。

- (1) データ回収・公開事業（継続事業）
- (2) 装置維持管理事業（継続事業）
- (3) 海洋モニタリング活動（継続事業）

(1) データ回収・公開事業

当初の目標：

東京-北海道間の沿岸海域を航行する篤志観測船「ひまわり 8」による表層塩分、水温、pH データを低遅延で公開する。

沿岸データの公開：

2021年11月に撤去した電子部が半年ぶり、2022年4月に全面改修を終え、完全復帰しました。時刻飛び（データ欠損）も見られず、データを安定して取得・公開しています。

製造元に依頼していた校正作業を終え、こちらも半年ぶりに塩分計が復帰。2022年6月から計測再開するも、12月に入り記録異常が顕著となり公開を中断。原因究明に取り組んでいます。

電子部の復帰によりデータの安定化に成功したものの、昨今の製造・物流の混乱から、新規 pH の調達そのものが遅れています。2023年11月の納期予定の報告を受け、復帰を目指します。

今年も、2022年10月に実施された東京湾環境一斉調査に日本通運株式会社と共同で参加し、2022年8月3日の調査基準日に、同社の RoRo 船「ひまわり 8」に搭載した観測装置で計測した、東京湾入り口から湾奥部の中央防波堤にいたる海域での往復の水温、塩分、308件を提供することができました。

データ回収：

「ひまわり 8」の観測装置による 2022年4月～2023年3月までの東京-北海道間沿岸海域の公開データ数は約 27.6 万件と、電子部の完全復旧を受け、一昨年 2021年3月期の水準（22.7 万件）と比べても、同水準の安定した状況にあるといえます。

但し、データを内訳を見ますと、安定して公開できているのは水温に限り、記録が安定しない塩分計、調達が遅れている pH 計と、各センサーの状況は変わらず、今期持ち越しとなりました。

データ処理の自動化：

データの自動処理（品質管理・記録・公開）は、常に細かな修正がなされ、省力化と低遅延を更に進めています。

実績経費：

データ回収・公開事業の実績経費は、54.1 万円でした。

(2) 装置維持管理事業

当初の計画：

pH データを含めて観測装置全体の安定稼働に努める。「ひまわり 8」の運航にかかわる関係者との緊密な連携を維持し、搭載装置が安定的に稼働するようにする。

観測装置の稼働状況：

2022年4月に電子部が完全復旧し、装置全体の安定が確認されました。ところが、pH 計の納期の遅れの他、昨年の冬からは塩分計の記録異常が発生し、その対応に追われています。

塩分計に関しては、現在も原因が特定されておらず、製造元への修理依頼も視野に入れつつ、詳細な調査が続けられています。

pH 計については、2023年11月の納期予定の報告を受け、早期の計測再開を目指しています。

メンテ訪船作業：

ひまわり8の臨時運航の影響で、タイミングを計りながらの定期メンテナンスとなりました。塩分計記録異常のチェック作業のための臨時訪船が多かった印象で、訪船回数15回の内、臨時訪船5回を含みます。メンテ作業の従事者数は延べ30名。(メーカーの技術者は含まれません。)

篤志観測船関係者へのお礼：

当法人は、観測装置を搭載いただいている「ひまわり8」の船主である日本通運株式会社様、運航管理をご担当の日本海運株式会社様、「ひまわり8」の乗員の皆様をはじめ、ご関係の皆様から多大なご協力をいただき、航走水温・塩分・pHデータを取得・公開しております。コロナ禍の困難な状況にあって、特に訪船作業等にご支援をいただきましたご関係の皆様へに深謝いたします。海洋のモニタリングは、同一条件で長期に継続することに意義がありますので、今後も、皆様との信頼関係を維持・発展させ、目標達成に向けて進んでまいります。

実績経費：

装置維持管理事業の実績経費は202.0万円です。経年による部品交換等、軽微な補修が重なりました。

(3)海洋モニタリング活動

当初の計画：

米神漁港における定時採水、測温、サイズ別ろ過試料の作成、pH計測を継続する。採水した海水試料の分析方法については、試行錯誤をかさね、進展を図る。

米神漁港での定時採水(海洋モニタリング)活動の見直し：

「沿岸域でのモニタリングであっても、長期に継続すれば、より大きな空間スケールで起こっている変化をとらえることは可能ではないか」という趣旨ではじまった、小田原の米神漁港での採水調査活動は、現行の方法では当初の目的を完遂することがむずかしいと判断。そのため、2012年12月に始まり、10年間続けられた海洋モニタリングは、昨年(2022年)12月で、活動に幕を下ろすこととなりました。(2023年実績は、全8回(満月4回、新月4回)となります。)

相模湾=太平洋に面した場所に活動拠点を持つことを活かして、新たな型のモニタリングを展開できないか、模索が続いています。

実績経費：

海洋モニタリング活動の実績経費は5.73万円です。

6. 事業会計の概要

2023年3月期事業会計

2023年3月期の事業会計の概要は以下のとおりです。当法人は非営利事業のみを行い、事業会計は、経常部門と特定資産部門とに分離して管理されています。

〔経常部門〕

・ 事業収入	
受け入れ寄付金	342.5 万円
特定資産運用益収入	50 万円
・ 事業支出	
事業費（3事業計）	262 万円
管理費	122.6 万円

〔特定資産部門〕

・ 期初特定資産総額	5,319 万円
・ 期中特定資産増加額	28.8 万円
・ 期末特定資産総額	5,348 万円

なお、経常部門の23年3月期末の正味財産合計額は-45.9万円で、前期末より3.9万円減少しました。

7. 運営上の課題

当法人は、「海洋の基礎データを誰もが自由に利用できるよう提供し、海洋環境の変動を解明することに貢献する」との理念を掲げ活動を続けてまいりました。現在は、持続可能な社会の実現に貢献するという目標に向かって、日本通運様様の RoRo 船により東京-北海道間の沿岸海域で取得した精度の高いデータをご提供することに努力しております。

本活動の長所・強みを活かしながら、一方では有機的な横のつながり、新鮮味のある新しい展開も、求められている。そうした時期に来ているという認識を改めて共有しつつ、安定して活動を展開・進展させるよう取り組んで参ります。

今後も皆様のさらなるご支援をいただければ幸いです。

以 上